

## 第1分科会

### 【演題等】「兵庫県における不登校児童生徒の現状とこれからの不登校対策」

#### ～ひょうご不登校対策プロジェクト～

#### 【講演・発表者】

兵庫県教育委員会事務局義務教育課

主任指導主事兼主幹

大道 基伸

主任指導主事

酒井 亮

#### ・発表概要

##### 1 兵庫県の不登校児童生徒の状況

- ・平成27年度から小中学校ともに7年連続で増加。
- ・各学校には、一定程度のストレスを抱える児童生徒がいることが独自調査で判明。

##### 2 これまでの兵庫県の取組

- ・SC配置（小：134、中：全校）  
SSW配置（166中学校区）
- ・ひょうごっ子悩み相談、SNS悩み相談（通年：R元～）
- ・ひょうご不登校対策事業（R2年～）

##### 3 ひょうご不登校対策プロジェクト

- ・県、市町、関係機関、学校等が全県で一丸となり、不登校児童生徒支援を推進する体制を構築し、不登校対策を総合的に実施。（R5～）



#### ・発表要旨

##### 1 兵庫県の不登校児童生徒の状況

###### (1) 不登校児童生徒の状況

- ・平成27年度から小中学校ともに7年連続で増加。
- ・小、中学校ともに、「無気力・不安」が不登校要因の半数を占める。

###### (2) 心のケアアンケート調査結果（R2・3年度）

- ・新型コロナウイルス感染症が子ども達の心に及ぼす影響について、調査を実施。
- ・各学校には、一定程度のストレスを抱える児童生徒がいることを前提として、児童生徒の心の理解とケアに取り組むよう、働きかけを行った。

##### 2 これまでの兵庫県の取組

###### (1) 未然防止の取組

- ・不登校未然防止リーフレットの配布（H31.3）

###### (2) 早期発見・早期対応の取組

- ・SC配置（小：134、中：全校）、SSW配置（166中学校区）
- ・ひょうごっ子悩み相談、SNS悩み相談（通年：R元～）
- ・不登校担当教員の配置（R5：75校）

- ・学校問題サポートチーム（通年：R4～）

(3) 関連施設、民間施設との連携

(4) ひょうご不登校対策事業（R2 年～）

- ・冊子「不登校児童生徒への多様な支援に向けて」の配布（R4.3）
- ・報告書「令和4年度ひょうご不登校対策事業研究協力校 実践事例報告（R5.3）」
- ・リーフレット「不登校対策の充実に向けて」を配布（R5.3）

### 3 ひょうご不登校対策プロジェクト

(1) ひょうご不登校対策推進協議会、ひょうご不登校対策推進委員会推進協議会において、推進委員会が出された意見等を踏まえ、これからの不登校対策の取組について協議を行い、地域会議（県内6地区）で各市町、学校に発信。

(2) 学校における取組

- ・全ての学校に不登校対策チームを設置。
- ・各学校の実態把握に基づく「不登校対策支援プラン」の計画、実行、評価、改善。

(3) 各教育事務所における取組

- ・地域会議「ひょうご不登校対策地域会議」を開催。
- ・「学校問題サポートチーム（R4 設置）」を中心とした支援体制の強化。
- ・地域研修会「ひょうご不登校対策地域研修会」を開催。

### ・質疑応答の概要

#### 1 兵庫県の不登校児童生徒の状況

Q 1 県内の教育事務所ごとに見た場合、不登校の状況に違いはあるか。

A 1 不登校が極端に少ないという教育事務所はない。

#### 2 これまでの兵庫県の取組

Q 2 但馬やまびこの郷の「地域やまびこ教室」について、詳しく聞きたい。

A 2 神戸（県立神出学園）、阪神（県立海洋体育館）、播磨東（県立嬉野台生涯学習センター）、播磨西（県立山の学校）、淡路（国立淡路青少年交流の家）に出向き、体験活動や保護者の交流会を行っている。

Q 3 但馬やまびこの郷における教員の研修とは、どのようなものか。

A 3 県や神戸市が配置する不登校担当教員を対象とした悉皆の研修。県立教育研修所の実施する中堅教諭等資質向上研修等においても研修を行っている。

Q 4 やまびこの郷では、SNS 等を使った居場所づくり等を取り入れているか。

A 4 但馬やまびこの郷は原則スマホ等を使わない。今後、SNS 等を活用し、自己存在感等が得られていくなどの研究が考えられると思う。

#### 3 ひょうご不登校対策プロジェクト

Q 5 ①県では不登校特例校の設置について、どのように考えているのか。

②子どもをフリースクールに通わせる家庭への支援は考えているのか。

③不登校担当教員の配置は増加していくのか。

A 5 ①県での設置は考えていない。設置を検討している市町はある。

②フリースクール自体への補助は考えていない。国の動向を注視していき

い。

③配置数の約半分は県独自に配置しているのが現状。現状維持、増加に努める。

Q 6 兵庫県における不登校担当教員の割合や仕事の内容はどのようなになっているか。

A 6 基本的に授業は担当してもらうが、持ち時間数は少なくしている。授業以外で学校全体の計画作成や個別対応、関係機関との連携を行っている。

Q 7 ①プロジェクトに子どもの意見が反映されていない。

②不登校の原因について、子どもの心に重点を置きすぎている。現場の感覚では福祉や医療の面での支援が必要な場面も多い。

A 7 ①学校がプランを作成する際には、不登校対策支援シート等を活用する際、子どもの考えや保護者の思いを当然確認することになる。

②S CやS S Wが連携しながらチーム学校として取り組んでもらえるようをお願いしている。特別支援的な発想での支援も今後は必要であると考えている。